

# シリアへの 救急医療支援と、 元JICA研修員 の協力

浅井康文

札幌医科大学医学部高度救命救急センター  
教授

はじめに

筆者はシリア政府の要請に基づきJICAの救急医療体制支援専門家チーム・リーダーとして、シリアに出向した。出向はイラク戦争勃発の翌日・2003年3月21日であり、4月3日までイラクからの難民流入が予想されるシリア北部のハッサケ県立病院で活動した。

## 救急専門家チームの構成

救急医療体制支援専門家チームの構成は、医師1人、救急専門看護師1人、助産婦の資格を持つ看護師1人、薬剤師1人、調整員1人の計5人である。JICAシリア事務所（長澤事務所長）を訪問し、シリアの現状や緊急時の退去手順についてブリーフィングを受けた。

## シリアとは

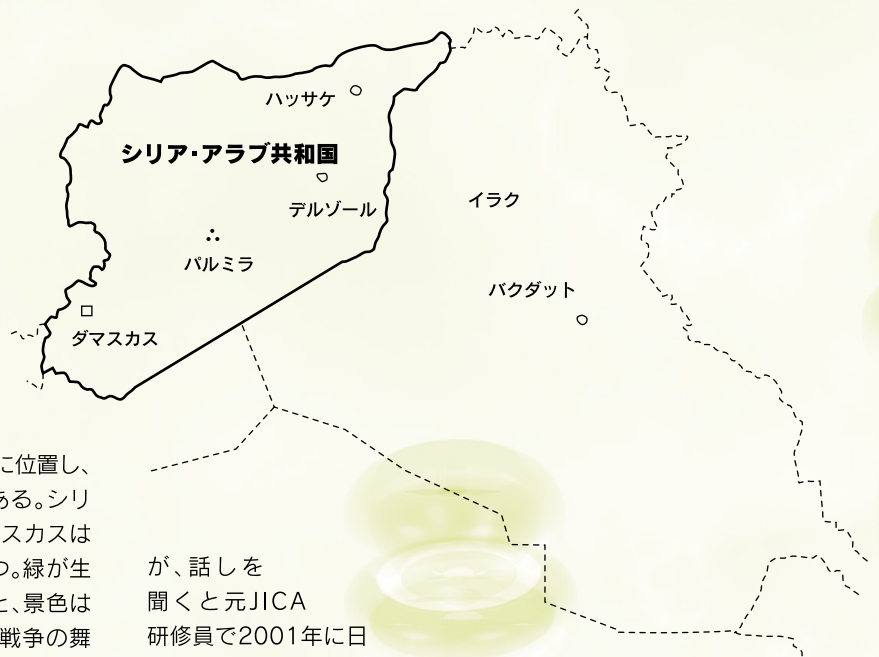
シリアの正式国名はシリア・アラブ共和国で、東地中海に位置し、日本の半分の面積を有し、北海道の約2.5倍の面積である。シリア全土の人口は約1750万人で、約140万人の首都ダマスカスはオリエントの真珠と称えられ、4000年もの歴史を持つ。緑が生い茂る西部から、砂漠が広がる中部から東部にはいと、景色は一変する。南西部には1973年のイスラエルとの10月戦争の舞台となったゴラン高原が広がり、国連監視下の非武装地帯となっており、現在もPKOで日本から自衛隊が派遣されている。民族構成は85%がアラブ人で、イスラム教徒である。社会主義国家であり、国中にアサド大統領と父親の肖像画が掲げてあった。

目的地のハッサケ県はシリアの北東部で、ダマスカスから直線で約500Km北東、イラク国境から約70Km西に位置する。ダマスカスからはシリア砂漠を通り、パルミラ、テルゾールを経由して入る。パルミラの遺跡は1980年にユネスコの世界遺産に指定された。ちょうど帰国する日のシリアタイムズ紙に、日本・シリア経済協力50周年を記念して、日本政府がパルミラ博物館のビデオ施設充実に資金を出すことが、林梓特命全権大使の写真とともに大きく報道され、日本との友好が記事に載っていた。テルゾール市に一泊し、翌日ハッサケ市に到着。

## ハッサケ県

ハッサケ県はシリアの北東部に位置し、14の地域からなり、トルコ、イラクとの国境に近い。ハッサケ市は、自分達の国をもたずイラク、イラン、トルコ、シリアにまたがって生活しているクルド人の町である。ハッサケ市から約45Km東には難民キャンプがあるアルホールがある。

まずハッサケ県知事であるドクター・サリームを表敬訪問した



が、話しを聞くと元JICA研修員で2001年に日本を訪問したことが分かり、日本の技術援助と支援に感謝していると述べられ、その後色々な面でお世話になった(図1)。そして宿舎が見つかるまでの3日間は人造湖の近くにある軍の宿泊施設に泊めて頂き、大変助かった。



図1：ハッサケ県知事のドクター・サリームを表敬訪問(右が筆者)